

令和2年度 外部研修報告書

大阪中之島美術館準備室 外部研修生

藤原あすか（大阪大学・3年）

本研修に参加した理由

2022年に開館予定の新しい美術館の準備室にて、インターンシップが実施されるという知らせを大学のゼミの先生から教えていただいたのが最初のきっかけであった。以前から、文化・芸術の振興に関心があり、今回新しく開館される美術館の準備段階に携わるということは、美術館という、社会において文化的に非常に重要な役割を果たす施設に、ひいては文化・芸術全般に、少しでも貢献できるということなのではないかと考え、参加するに至った。また、本研修の主な内容はアーカイブ資料の整理と検索手段の作成であったが、以前オーラルヒストリーに関する大学の講義を受けた際に学んだ、記録を整理し残すことの重要さと難しさを、実際に研修において経験できると考えたことも参加しようと思った理由の一つである。

研修期間

令和2年12月7日から令和3年2月8日までの全16日間

研修内容

1 大丸大阪店ショーウィンドー装飾記録写真

デザイナーである金山新六（1907-1940）が手掛けた大丸大阪店のショーウィンドー装飾の記録写真、72枚のリハウジング作業を行った。写真（プリント）を保存に適した容器に、写真の裏面にある通し番号を基に移し替えるという作業であった。リハウジング作業に続いてデータベースへの登録作業を行った。データベースへの登録にあたり、追加できる情報がないか写真を詳細に点検していき、数字や、漢字・ひらがなといった文字情報について新たに判明したものが幾つかあったため、それらを追加登録した。

2 近代音楽・演劇・舞踊関係資料

朝日新聞社に勤務していた大道弘雄（生年不明-1961）の収集物とされる、国内外の音楽・演劇・舞踊公演等、舞台芸術に関連する紙資料の編成計画、処理、そしてデータベース登録作業を行った。資料に何が含まれているかを一通り確認し、大まかに「音楽」「演劇」「舞踊」「その他」の категорияに振り分け、そして簡易なインベントリを作成した。次にそのインベントリに基づいた編成計画を作成した。その後、さらに細かく資料を点検してインベントリに情報を追加した。インベントリ作成完了後は、インベントリ及び編成計画を確認しながら資料をファイルに移動させた。シリーズに新たに「雑誌」というものを追加し、どのシリーズに入れるべきか悩み保留していたものや、詳細な確認後に正しい情報が判明した資料などの最終的な配置を決定、また、全ての資料から年代・場所・人名・作品名といった情報を抜き出した後、再度、各資料が正しいファイル及びシリーズに入れられているかを確認して実際に手にとって資料を扱う作業を終了した。そして、インベントリの修正作業をさらにを行いデータベースへの登録作業へ移った。途中までデータベースへの登録作業を行って、研修を終了した。

研修を通しての感想

私が美術・芸術の知識に乏しいこと、初めて資料整理に従事したことから、研修のメインであった近代音楽・演劇・舞踊関係資料の整理作業については終始わからないことも多く、判断に苦しんだり時間がかかってしまったりした作業もあった。特に外国語の資料に関しては内容を把握するのに時間を要し、分類作業もかなり骨の折れる作業であった。しかし、学芸員の方から助けていただきながら、資料の内容を繰り返し点検しているうちに、初めはわからなかったことがわかるようになるという経験が何度もあり、回を重ねていくごとに資料が正しく詳細に整理されていくという喜ばしい感覚を味わった。研修は全体を通して地道な作業が多かったのだが、そこで今まで自分が利用してきた資料もこのような作業の積み重ねの結果だったのだと気づき、整理された資料があるということの有り難さを改めて知ることができた。

研修で気をつけていたことは、資料内容を正確に読み取ることと丁寧な扱いをすることである。年代や人名などの客観的な情報は、記録を残すにあたって最も重要な部分であると考えていたため、間違っ て読み取っていないかどうかは常に確認するようにした。また、資料の中にはかなり年代の古いものも多く含まれていたため、扱いには細心の注意を払った。少しの力で破れてしまいそうな薄さの紙資料や、長い期間同じところで折り畳まれていて広げようとする と破れたり穴が開いてしまいそうになったりするものに関しては特に慎重に触れるようにしていた。このような古い資料を扱うことは恐らく今後も二度と無い経験であると思う。

アーカイブというものの重要さと奥深さ、作業の大変さを短期間の研修を通してほんの少しでも学ぶことができたのは、今後の人生の中でも貴重と言える経験となった。また、研修に参加したことで美術館の開館にもより期待が高まった。研修での学びを忘れず今後 に生かしたい。